

一般社団法人全国信用金庫協会 〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7

2022年5月20日

第25回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる!

ー少年野球の支援活動による青少年の育成ー

大阪シティ信用金庫(大阪府)が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会(会長:御室 健一郎)が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第25回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人賞受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第25回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名(都道府県)	受 賞 活 動 名
会長賞	大阪シティ信用金庫(大阪府)	少年野球の支援活動による青少年の育成
Face to Face 賞	浜松いわた信用金庫(静岡県)	金融教育セミナーを通した地域人材育成
	尼 崎 信 用 金 庫(兵庫県)	あましん緑のプロジェクト
	米 子 信 用 金 庫(鳥取県)	皆生温泉観光宣伝隊
個人賞	飯 田 信 用 金 庫(長野県) ^{c かまき} よしひろ 坂巻 剛弘 氏	飯田市消防団長
	敦賀信用金庫(福井県)t は たけ みのる	弓道を通じた地域貢献活動
	姫 路 信 用 金 庫(兵庫県) で	地域少年サッカーチームの指導
地域活性化しんきん 運動・優秀賞	釧 路 信 用 金 庫(北海道)	アイヌ文化のブランド化による地域活性化
	三島信用金庫(静岡県)	高校生が制作する新聞への支援活動

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、様々な分野で地域貢献・社会 貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域に おける存在価値を一層高めていくことを目的に、1997年に創設いたしました。この ような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰 することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年10月から12月までの募集期間に、157信用金庫・4関係団体から569の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、災害からの復興支援、地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員による厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞6信用金庫、個人賞受賞3名の活動が決定いたしました。

<参考> 第25回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

金庫-応 募 地区名 団体数 件 数 北海道 14 45 29 15 東北 100 関 東 31 12 57 東 京 北陸 9 18 25 106 東 海 22 123 近 12 43 中 玉 四 4 6 玉 18 九州北部 4 南九州 9 19 団体 4 5 合 計 161 569

活動分野別応募状況

活 動 分 野	応募件数
地域社会活動	382
スポーツ	68
社会福祉	23
芸術・文化	35
教 育	28
環境	22
災害救援	6
史跡・伝統文化保存	5
숌 計	569

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 西川、今林、鈴木(拓)、伏木(TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。

◆第25回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 コロナ禍での地道な活動に感服 活動の「継続は力なり」を体現 選考委員 村 本 孜 氏 (成城大学 名誉教授)

第25回信用金庫社会貢献賞は、選考対象活動総数は161金庫・団体、569件と例年以上の応募を得た。応募金庫の熱量を感じる案件ばかりで、審査は難しい作業であった。地域バランス、応募歴、受賞歴などを勘案した上で、活動自体の地域貢献度、ユニークさ、地元での評価などを考慮するのであるが、活動の範囲は広く、優劣を付けることは簡単ではない。選考委員会で、選考委員が差別化することの難しさを吐露されることも多い。今回受賞に至らなかった活動も来年度以降繰り返し応募していただけることを祈念して已まない。

社会貢献賞は30年前の信用金庫長期ビジョン研究会の答申を受けて、全信協が設置したものである。爾来25年で、全国254信用金庫のうち相当の信用金庫が何らかの形で受賞されてきた。毎年、8~9程度の受賞数なので、ほぼ200以上の信用金庫が受賞された計算になる。もう暫くで全信用金庫に行き渡るのではないかと思う。反面、同一の信用金庫が複数回受賞するケースも見られるようになった。この賞の趣旨は「全国あまねく」ということもあり、選考委員の悩みでもある。最近は内閣府特命担当大臣(地方創生担当)の表彰などもあるので、大臣表彰と重なることもあるが、信用金庫社会貢献賞の独自性も出せると良いと思う。

現下の社会経済情勢は、コロナ禍が収束せず、諸活動に対して大きな制約がかかる中なので、活動の継続が困難な場合も多いようである。その中で地道に取り組んでいる活動には感服するばかりである。高齢化の中で地域の活動拠点である特別養護老人ホームの清掃ボランティア、認知症対応など地元に密着した信用金庫らしい活動には評価が高かった。地元の観光資源である温泉を地元の経済団体などとコラボし、観光宣伝隊としてキャラバン活動を行い、信用金庫のネットワークを活用した取り組みは、地元に密着し、運命共同体というか、そこでしか生きられない信用金庫らしさを体現したもので、特段の新規性はないかもしれないが、まさに社会貢献そのものである。

会長賞の少年野球支援活動は、30年以上、少年野球大会主催に留まらず、球場のネーミングライツ、信用金庫の野球部の全国制覇など複数の派生を生んでおり、支援活動の中から著名な米メジャーリーガー、NPBプレーヤーを輩出していることなど申し分ない。信用金庫業界では野球が隆盛と仄聞するが、まさにその代表といえよう。

個人的には、個人賞が印象深い。20年以上に渡り、地元の消防団活動に参加し、近年多発する自然災害にも対応し、1,000人以上の団員をまとめるという重責を担うことは容易ではない。ただただ、頭が下がる想いである。スポーツ活動の指導を担われた受賞も半世紀、あるいは40年弱の活動歴と地元の協会団体などの評価も高く、受賞に値する。毎朝・毎土曜日を活動するなどその継続性は凄い。継続は力なりを体現している。個人賞は、このような継続とたゆまぬ努力の活動が目白押しなので、今回受賞されなかった方々も是非引き続き応募されたいと念じている。

前述の長期ビジョン研究会に関わった者として、全国254の信用金庫そして各種団体の活動に陽が当たり、それぞれユニークな活動が信用金庫業界において共有され、横展開されるようになることを期待している。コロナ禍の中で、信用金庫の諸活動がメディアで紹介されることが多くなった。それだけ信用金庫のプレゼンスが高まったとも言えるし、社会的評価が向上した証であろう。今後とも、各信用金庫で継続してきた諸活動を見直し、新規性・ユニークさはなくとも、地元と伴走・伴奏した姿を社会貢献賞応募という形で実現していただくことを期待したい。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

大阪シティ信用金庫(大阪府)/少年野球の支援活動による青少年の育成

大阪シティ信用金庫はこれまで社会貢献活動の一環として地元大阪のスポーツ振興に向けさまざまなイベントに協賛、参加してきた。とりわけ「大阪シティ信用金庫杯大阪府春季少年軟式野球大会」への特別協賛、優勝杯の提供を通じた少年軟式野球への支援は30年以上にわたっている。本大会は、累計で約3千超のチーム、約6万人以上の選手が出場し、各地区の予選に出場したチーム、選手を含めると参加者は延べ25万人にのぼる。大阪の子どもたちの心身の健全な育成と、夢実現の第一歩として位置づけられている。大会出場者からは日米プロ野球、社会人野球、高校野球の名門チームで活躍する者も輩出している。

主な出場選手には現役メジャーリーガーでは、ダルビッシュ有選手、前田健太選手が挙げられ、 現役を退いた中では日米で活躍した黒田博樹氏(広島カープ、ドジャース、ヤンキース)、上原浩治氏 (読売ジャイアンツ、オリオールズ、レッドソックス) らが優勝杯を目指してマウンドに立っている。 何より、本大会は勝敗を越え、球児たちの元気一杯のフェアプレー、スポーツマンシップ、両親や 指導者、審判や大会スタッフへの感謝の気持ち、用具を大切にする心などを育成する舞台でもある。 さらに、出場を通じて数々の思い出や交流を図り同金庫に就職する学生や給与口座を開設する社会人 など、本活動は同金庫の企業認知度の向上、ファンづくりにもつながっている。

令和3年に開催された大会では、大阪府各地区約400チームから厳しい予選を勝ち抜いた97 チームが熱戦を繰り広げたが、同金庫は、大会運営の費用面等、資金支援にとどまらず、子どもたちへの安全対策や競技日程などの協議にも積極的に参加、大会期間中は全店にポスターを掲示し周知に協力した。開会式や閉会式に役職員が駆けつけ、参加する野球少年少女に声援を送る。また、同金庫野球部による模範プレーの披露など、大会運営組織と一体となった参画となっている。

【Face to Face 賞】

浜松いわた信用金庫(静岡県)/金融教育セミナーを通した地域人材育成

浜松いわた信用金庫では2007年より将来を担う青少年の健やかな成長・夢を育み、意欲を向上することで、地域の発展を図ることを目的として、営業エリアである浜松市内、磐田市内中学校を中心に、小学校、高校、大学、社会人(若手・新入社員)に出張型の「金融教育セミナー」を企画・開催してきた。自分のお金を使用、管理し始める時期に金融教育を通じて適切な経済観念を身につけることの重要性を伝え、青少年が自らの身を守り、健全な社会生活の礎を築いていくための講座である。足掛け15年にわたる活動であるが、ここでは併せて実施している「マナー講座」に焦点を当て、その概要を紹介する。

同金庫の営業エリアでは中学2年時に職場体験学習が行われ、マナー講座はその事前学習として役立てられるまで地域に根を下ろしている。プログラムは同金庫の職員が市内の中学校を訪問し、職業への理解を深めながら社会で求められるコミュニケーション能力として、時と場に応じた言葉の大切さ、返事と挨拶の仕方、お辞儀の種類などを学ぶ。担当教諭から「マナー講座で学んだことをこれからの学校生活で自然にできるように願っている」という生徒の今後の成長を望む声が寄せられた。また、体験先事業所からは「大変礼儀正しく、初日の朝礼でも大きな声で自己紹介や挨拶ができ感心した」という声が学校長宛に届いたという報告も受けている。

「金融教育セミナー」では小学生には主に「お小遣い帳」への記入を教える「お金の教室」、中学生には「金融機関の仕事」、高校生には「教育費」について幼稚園から大学に行くまでに必要なお金を教え、学生が自分事として資金について学んでいる。また、社会人への講義回数は通算で1,039回、参加人数は延べ69,135人を数える(2022年3月31日現在)。地域人材育成の一翼を担うこの活動を今後も継続することで地域の期待に応えていく。

【Face to Face 賞】

尼崎信用金庫(兵庫県)/あましん緑のプロジェクト

尼崎信用金庫は兵庫県尼崎市を地盤とする地元企業として、環境保全活動に積極的に取り組むため、「あましん緑のプロジェクト」を立ち上げ活動している。「あましん緑のプロジェクト」は、創業90周年記念事業として若手メンバーが「地域貢献活動に役職員全員が取り組むことができるプロジェクト」として提言し、「尼崎21世紀の森づくり」へ参画した。同金庫が地域住民の一員として環境へ貢献し、「誇りと夢」のあるみんなで取り組めるプロジェクトが始まったものである。

「尼崎21世紀の森づくり」は森に植える木の種を地域で採取し、「苗木の里親制度」として広く市民・地域の方に育てていただく全国でも珍しい取り組みである。同金庫の近隣にある六甲山などの山々で採取した種をまいて苗木を育てるなど、郷土の種を植樹する生物多様性を大切にした森づくりを行っている。

同金庫は兵庫県から「苗木の里親企業第1号」の認定を受け、森づくりに向けてさまざまな活動を行っている。兵庫県から苗木の提供を受け、金庫敷地内の育苗施設で苗木を育成。新入職員を「苗木の里親案内人」として養成し、尼崎市内の本支店に設けた「苗木の里親コーナー」を通じて、職員が「尼崎21世紀の森づくり」を紹介、新たに里親となっていただいたお客さまに苗木をお渡しする活動を実施。また全店舗で「尼崎21世紀の森づくり」紹介ビデオの放映を行うなどプロジェクトの普及・啓蒙を担った。

さらに、プロジェクトに賛同するお客さまに苗木2本を2年間育てていただき、同金庫主催の 植樹祭で植樹する環境保全活動商品「どんぐりの木」を発売し、契約いただいたお客さまをはじめ 地域一体となった植樹活動を継続して実施する体制を整えた。

苗木植樹活動は、2011年に「第1回あましん植樹祭」を開催し、2021年までに合計10回の 植樹祭を開催した。植樹祭には毎回多くの顧客や役職員が参加し、植樹活動を通じて自然の大切さや 森づくりの過程を知ることができる貴重な経験となっている。

2021年で10年間の植樹活動は終了となり、2022年より90年かけて森を育てる活動へ移行し、苗木の成長をサポートする除草や間伐などを中心とした活動を行っている。今後も地域と共に、環境保全活動に積極的に取り組む姿勢は変わらないものである。

【Face to Face 賞】

米子信用金庫(鳥取県)/皆生温泉観光宣伝隊

鳥取県米子市に本店を置く米子信用金庫が地元の旅館組合、観光協会、自治体で構成する観光 キャラバン隊を結成してから21年の歳月が経過した。活動の発端は、鳥取県西部地震(2000年 発生)にあった。この地震では最大震度6強を記録し、住宅やビルの倒壊、各地で土砂崩れも発生す るなど大きな被害をもたらした。米子空港は閉鎖され、米子自動車道でも全面で通行止めになるなど 交通動脈を直撃した。

阪神淡路大震災を超える規模と報じられ、観光への打撃も憂慮されるなか、風評リスクを払拭するため翌年9月に「皆生温泉観光宣伝隊」と称するキャラバン隊を結成、信用金庫の全国ネットワークを活用し、山陽方面の信用金庫から訪問を開始した。以来ほぼ毎年欠かすことなく西日本の信用金庫を中心に訪問し、延べ訪問数は120信金を超え、皆生温泉への来訪客は推計で延べ1.6万人となっている。2018年には営業エリアの垣根を越え、同金庫、鳥取信用金庫、但馬信用金庫の3信金と各地元旅館組合とで共同観光宣伝隊を結成し東京都内の7信金を訪問。山陰路を周遊する顧客向け旅行の実施を呼び掛けた。

3信金が連携することでPRする宣材が増え、山陰に対する魅力度が高まり連泊にもつながるなど一定の成果があった。2020年には新型コロナウイルス感染症の影響を受ける皆生温泉の宿泊客を確保するために、従来の訪問活動の代替として温泉を紹介するYouTube動画を作成。泉質の良さ、山海の幸が楽しめる立地環境など皆生温泉の魅力を7分半の動画にまとめ、皆生温泉旅館組合や同金庫からのメッセージも盛り込んだ力作である。マイカーなどによる近場への旅行が期待できると見込み、中四国29信金の理事長宛に動画閲覧を呼び掛ける文書を郵送し、来訪を求めた。地元の観光宿泊需要の回復に向け、今後も周知活動に力を入れていき、地域の支援につなげていくことを目指す。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

釧路信用金庫(北海道)/アイヌ文化のブランド化による地域活性化

釧路地域では人口減少、産業の衰退が進んでおり、新たな産業の育成と雇用創出が課題となっている。一方、阿寒湖畔地区では特別天然記念物「マリモ」や道内最大のアイヌ民族の集落「アイヌコタン」など魅力ある観光資源を有していることから、近年はインバウンドの効果で外国人観光客は増加傾向にあった。

しかし、地区の土産品店では均質的な木彫り商品が売り場を占め、地域ブランドの育成や認知度の 向上が求められていた。こうした課題に対し釧路信用金庫は、地区の独自性であるアイヌ文化を生か した市場性の高い商品を開発し、併せて販売力を高め、観光関連産業の育成と雇用創出のため、日本 財団「わがまち基金」の助成金を生かした地域活性化事業の構築に着手した。この活動の開始に当た り同金庫、阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路市、工芸作家が営む土産品店などで構成される プロジェクトチームを立ち上げた。

地元の事業者がブランド力のある商品を開発・販売するためにパートナー企業として、セレクトショップ大手「BEAMS」を選定。アイヌの文化や歴史を調査し、関係者からのヒアリングを重ねるなど新商品の企画・開発にも参加いただいた。具体的には、BEAMSによる試作品へのアドバイスやブラッシュアップ作業が繰り返され、そのような経緯を経て生まれた「アイヌクラフツ」は、2019年5月にBEAMS本社(東京)で作品発表会を開催。8月には阿寒湖畔地区で作品発表会を、10月には東京・新宿のBEAMSで販売イベントを開催し、その模様は各種メディアで取り上げられた。

これらの取り組みは地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」地方創生担当大臣表彰 受賞という結果をもたらし、「阿寒湖畔地区におけるアイヌ文化」の知名度も大幅に向上した。今後も BEAMSでの販売は継続予定となっており、当初の目的である地域活性化にも貢献したと確信している。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

三島信用金庫(静岡県)/高校生が制作する新聞への支援活動

三島信用金庫が営業エリアとする静岡県東部・伊豆地域では人口減少要因の一つに「県外の大学等へ進学した若者がそのまま県外で就職してしまう」ことが挙げられていた。こうした地域課題に対しては地元企業の魅力を若年層へ発信することが重要であり、同金庫は課題解決のために「地元の高校生が地域の魅力ある企業を自ら取材した新聞を作成し、同世代に発信する取り組み」を企画した。

この施策は、同金庫取引先企業の経営課題である若年層へPR機会を創出すること、新聞制作に関与した学生が将来的に地域人財として地元で活躍するという好循環を目指している。地元高校、行政機関、取引先企業、報道各社と連携してこの取り組みを積極的に推進していった。新聞名は「まち・ひと・しごと新聞」。このスキームでは同金庫が地元高校の新聞部に委託し、取引先である中小企業に取材及び新聞制作を行っている(取材に伴うスケジュール調整は同金庫が行い、取材にも同行している)。

新聞は参画高校の全生徒に配布するとともに同金庫の店頭や自治体を通じて幅広く配布のうえ 広報を行ってきた。創刊号の発行は2017年3月1日で参加校は1校、全2章、発行部数は3千部で あった。翌年の第2号(3月1日発行)では参加校が3校に増え、紙面も全4章にボリュームアップし、 取材企業も5社に増えた。県副知事と意見交換会を実施するなど、取材時の様子も記事として掲載され、 発行部数も1万部の大台に達した。以後、参加校は増え発行部数も順調に伸び、2022年発行の 第6号では4校が新聞制作に参画し、発行部数も1万3千部に拡大した。

現在、この取り組みは県公式ホームページにも紹介されている。地域に根差した金融機関だからこそできる新たな仲介モデルであり、高校、県などの行政機関、取引先企業などを巻き込むことで波及効果が期待できる活動としてこれからも継続していく。

【個人賞】

飯田信用金庫(長野県)坂巻 剛弘 氏/飯田市消防団長

坂巻氏は現在18分団、団員数1,107人で構成される長野県飯田市の消防団長として、2020年7月の豪雨では29回にわたり災害現場に出動し陣頭指揮を執った。有事への出動態勢維持に努める一方、積み土のう工を用いた水防活動を指揮。災害処理、二次災害防止活動では河川等の警戒巡視、浸水家屋などの排水活動に当たったが延べ733人の団員を指揮し、人命の安全確保と被害の軽減に尽力した。

その他、消防活動として人探し等による現場への出動は月1回の割合で発生、出動要請にも速やかに応じてきた。飯田市消防団は2021年3月に令和2年度水防功労者国土交通大臣表彰を、11月には令和3年度防災功労者内閣総理大臣表彰をそれぞれ受賞したが、全国2,199の消防団(2020年現在)が存在するなか、双方を受賞した例はなくまさに快挙となった。

坂巻氏は約21年という長期にわたる消防団員の重責を担い、現在はトップとして消防団を 統括するポジションにいる。消防団員には常に高い緊張感・責任感が求められ、精神的・肉体的な 負担は計り知れない。消防団での活動を通じ地域の防災に貢献するという使命感こそ日々の活動 の源泉である。

【個人賞】

敦賀信用金庫(福井県)佐竹 稔 氏/弓道を通じた地域貢献活動

佐竹氏は、高校時代に弓道部に入部し翌年には福井県代表としてインターハイに出場を果たした。 以降は弓道を約25年間継続。1997年から敦賀市弓道協会の理事長、2003年から副会長、そして 2019年から会長として同協会の若年者への指導や地域住民を対象に弓道教室の指導を担い、普及 活動に尽力してきた。2010年に日本スポーツ協会「弓道公認指導者」資格を取得し、体験学習、 スポーツ教室、ジュニア層講習会、国際交流体験などで指導に当たってきた。

「福井しあわせ元気国体」の開催に当たっては、弓道競技会委員(会場係)として任務に就き、先立って開催された岐阜国体と東京国体を視察。敦賀市国体推進課、福井県弓道連盟、敦賀市弓道協会、会場設営業者との会議にも都度参加した。開催運営の調整、会場係業務マニュアルの作成等、会場の設営や運営、保安、整備などに力を入れた。

長年にわたり敦賀市弓道協会の役員を歴任し、ねんりんピック(全国健康福祉祭)や全日本勤労者 弓道選手権大会(国体プレ大会)など全国大会の運営に尽力するとともに、弓道の魅力を次世代に 伝承しようと努めていることが認められ、2018年には敦賀市体育功労賞を受賞した。今後も弓道を 通じて地域に貢献し続けていく。

【個人賞】

姫路信用金庫(兵庫県)廣村 尚良 氏/地域少年サッカーチームの指導

廣村氏は、地元小学校で創設された「安室サッカークラブ」(以下「安室SC」)に小学3年時に入団。以来、社会人まで続けたサッカーを通して「仲間の大切さ」「あいさつ」「感謝の心」「勝負時の集中力」など大切なことを学んだ。

恩師からの指導者補助の依頼をきっかけに、サッカーで学んだ「心」を地元少年少女に伝え、自らも成長していきたいと指導者の道に進んで38年が経つ。卒団生の中には、高校・大学・社会人チームの代表やJリーガーになる夢をかなえ、現役で活躍するプレーヤーもいる。これまで培ったキャリアを生かし、姫路信用金庫の地域貢献活動として2018年まで続いた「キッズサッカークリニック」では、活動当初に協賛・後援団体との橋渡し役を担った。

現在、安室SCの監督を務めており、兵庫県や姫路市のサッカー協会が主催する元Jリーガーのサッカー教室や研修会、県大会では実行委員長として運営に当たる。2018年3月、ドイツ、オーストラリア、韓国そして安室SCを含む県内の少年サッカーチームの計10チームが出場した県サッカー協会主催の海外交流大会においても実行委員として運営に携わった。サッカーから学んだ「心」が全活動の原動力となっている。

以 上

◆第25回「信用金庫社会貢献賞」について

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する 信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとす るとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象内容】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化 支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境 保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員(個人・グループ)

・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性(3年以上継続された活動であること。ただし、Face to Face賞の 応募活動のうち、その特性から活動期間が必ずしも長期にわたらないもの、地域 活性化しんきん運動・優秀賞は除く)、活動目的の社会的意義、地域との一体性(地域 に溶け込んだ地域の方々と一体となった取り組み)、活動の困難度、援助を受ける側の評価、感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法の ユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 2021年10月1日から12月30日まで

【選考委員】 ※所属等は2022年3月現在、敬称略

石田 徹 日本商工会議所 専務理事

島田 京子 元 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事

髙橋 陽子 公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長

野坂 雅一 総務省 地方財政審議会 委員

堀田 力 公益財団法人さわやか福祉財団 会長

御室 健一郎 一般社団法人全国信用金庫協会 会長

日沖 肇 信金中央金庫 副理事長

川本 恭治 一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

【各賞の内容】

会 長 賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に 判断し、Face to Face 賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の 中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face 賞・・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々との 一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として 今後の取り組みが期待され、奨励される活動、ならびにその特性から活動期間が 必ずしも長期にわたらないものであっても、環境・社会問題への取り組み、災害復旧 支援など関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・・中小企業のライフサイクルや経営課題等に応じた支援 活動や地域経済の面的な活性化に資する支援活動のうち、各々の地域社会の 実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるも のとする。

個 人 賞・・・個人あるいはグループの取り組みで、信用金庫職員として他の範となる活動 に対して与えるものとする。